南海トラフと地震

南海トラフは日本の太平洋岸沿いを通っている海溝で、ここでユーラシアプレートとフィリピン海プレートが交わっています。強度の地震が周期的にここで起こり、大きな津波がよく発生します。四国南部の人々は常にこの脅威にさらされ、様々な方法でそれに順応するよう強いられてきました。土佐清水市に点在する多くの石碑は、その一例です。これらの記念碑の多くには、後世の人々が知って備えができるように、過去の津波の高さや、内陸のどこまで波が到達したかなどが詳しく刻まれました。日本政府は南海トラフ巨大地震は、今後数十年以内に起こる可能性が高いと予測しているので、きっと準備は整っているでしょう。しかし、南海トラフ地震は単なる脅威以上のものと考えることもできます。何十万年にもわたる、海溝に沿った継続的な地殻活動は、土佐清水周辺の風景をかなり形づくり、この地域の険しい崖や多くの湾、豊富な漁場をもたらす一助となりました。